「教職課程年報第10号」の発刊に寄せて

教職支援センター長
前　田　研　史

中央教育審議会は、平成27年12月21日に「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学びあい、高め合う教育育成コミュニティーの構築に向けて～」を文部科学大臣に答申しました。この中には多くの内容が盛り込まれていますが、これからの時代の教員に求められる資質能力として、従来から言われてきたものに加えて、“情報を適切に収集し、選択し、活用する能力や知識を有機的に結びつけ構造化する力などが必要である”とし、また、教員個人として新たな教育課題に対応するだけでなく、“「チーム学校」の考えの下、多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、組織的・協働的に諸課題の解決に取り組む必要がある。”としています。このような文言が指し示していることは、これからの教員は、教育活動の中で必要な情報を多面的に読み取り、さまざまな立場の人と幅広くコミュニケーションをとり、チームワークの下で教育実践を行っていくことのできる能力を身につけ、強化していかなければならないということだと思います。

一方、同じ答申の中で、大学における教員養成の在り方についても改革の方向性が示されています。その一つとして、“教職課程における科目の大くくり化及び教科と教職の統合”が挙げられています。このことは、質の高い教職課程を編成するために各大学において創意工夫する努力が一層求められていることを意味しています。またもう一つは、“教育実習”との間で役割分担を明確にしたうえでの“学校インターンシップ”の導入です。これは、教職課程の学生が、学校現場において教育活動や校務、部活動などに関する支援や補助業務など、学校における諸活動を体験するためのものです。本学では、すでに「学校観察実習」として教職課程のカリキュラムの中に組み込まれ実績を積んできていますが、今後さらに教育委員会や各学校との連携を強め、内容の充実を図っていくことが必要だと考えられます。さらには、幼稚園から高校までの子どもの発達の流れと教育課程を見通したうえで、各学校における教育実践を行える資質を備えることも求められています。

このように、教員へ求められる資質や教員養成の在り方に大きな変化が起きてくることが今後予想されます。そのような状況の中で、実際に教員を目指して日々の勉学に励んでいる学生の皆さんには、教員に必要な資質と自分自身の目指す教員像とを時に照らし合わせてみてもらいたいと思います。そして、自分の夢の実現のためにこれからも頑張っていってください。